

令和 2 年 8 月の解説（府県天気予報）

【8 月の天候状況】

上旬は、日本の南海上を中心に太平洋高気圧の勢力が強まり、東・西日本太平洋側は晴れの日が多く、厳しい暑さとなった日があり、降水量はかなり少なくなりました。一方、日本海から北日本付近を低気圧や前線が通りやすかったため、北・西日本日本海側ではこの時期としては晴れの日が少なくなりました。また、7 日は台風第 4 号から変わった温帯低気圧の影響で、北・東・西日本日本海側では大雨となった所がありました。沖縄・奄美では、2 日から 3 日にかけては台風第 4 号の影響で大荒れとなった所がありました。期間の中頃は高気圧に覆われておおむね晴れましたが、9 日から 10 日は台風第 5 号の影響で、曇りや雨となりました。

中旬は、勢力の強い太平洋高気圧に覆われ、東日本と西日本を中心に晴れて厳しい暑さの日が多くなりました。東日本太平洋側では日最高気温が 40℃を上回った地点があり、17 日には、浜松(静岡県)で日最高気温の高い方から歴代全国 1 位タイの 41.1℃を観測しました。東日本の平均気温は平年差+2.9℃で、1961 年の統計開始以来 8 月中旬として最も高くなりました。また、東日本太平洋側と西日本太平洋側の日照時間はともに平年比 164%で、1961 年の統計開始以来 8 月中旬として最も多くなりました。雨の日が少なかったため東・西日本太平洋側では降水量がかなり少なくなりましたが、10 日から 11 日にかけては、台風第 5 号や湿った空気の影響で、西日本ではまとまった雨となった所がありました。北日本では、低気圧や前線の影響で、天気は数日の周期で変わりました。沖縄・奄美では、高気圧に覆われて晴れた日が多く、平均気温はかなり高くなりました。

下旬は、日本の東海上を中心に太平洋高気圧の勢力が強く、北日本、東日本、西日本は晴れて厳しい暑さの日が多くなり、西日本の平均気温は 1961 年の統計開始以来、2010 年と並んで最も高くなりました。高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、日照時間は北日本日本海側と東日本でかなり多く、北日本太平洋側と西日本でも多くなりました。降水量は東・西日本日本海側で少なくなりました。沖縄・奄美では、湿った空気の影響も受けやすく、22 日から 24 日にかけては台風第 8 号の影響で大雨となった所があったため、降水量はかなり多く、日照時間はかなり少なくなりました。

【8 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^(注)より 5 ポイント高い 85%で、明後日予報は例年値より 7 ポイント高い 82%でした。地方別の適中率では、明日予報と明後日予報ともに、沖縄地方を除く各地方で例年値を上回りました。

同じく 17 時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3℃小さい 1.3℃で、沖縄地方を除く各地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.1℃小さい 1.0℃で、関東甲信、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州北部、九州南部の各地方で例年値よりも小さくなりました。

^(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【10 月の天気予報の利用にあたって】

秋になると、日本付近を低気圧と高気圧が交互に通過するようになり、天気は数日の周期で変わるようになります。低気圧が急速に発達しながら日本付近を通過する際には、大雨や強風など大荒れの天気となることもあります。天気予報で大雨や強風などが予想される場合は、最新の気象情報や警報・注意報などに十分留意して下さい。